

# 事件報道を受けた後の検討 経緯



以下は、辻本元教授関連報道等が真実との前提で記述

追加質問②③④- I ④- II ⑤回答

1. 辻本元教授の不適切な行いを見抜けず研究を任せ続けてきた結果、多くの方に不信感を招いた事を大変申し訳なく思っている
2. この反省に立ち、今回の事件のけじめをつけるため、中心研究者として、
  - ✓ 不祥事を起こした研究者が所属していた薬学研究科との共同研究継続は適切でないと判断
  - ✓ 上記の意思を、支援担当機関に伝達
3. その後の対応につき、プロジェクトの継続/中止も含め 様々な角度から検討した結果、
  - ✓ 機器開発と実測による評価を通して、世界一の分析システムを構築し、新たな疾患バイオマーカーを同定する事等で、日本のみならず世界の人々の健康に貢献することが中心研究者の責務と判断
  - ✓ その実現のため、A. プロジェクトに遅延が生じないこと、B. 臨床検体にアクセスできること、C. これまでのノウハウを最大限生かせること 等を条件とし、最終的な成果を最大化する最善の研究推進体制をゼロベースで検討
4. 上記研究体制の検討に加え、PJとしても 経緯の説明や反省、再発防止への取り組みの徹底、成果達成のため最大限の努力をすること等を、例えばPJ-HPを利用し 国民に向け公表すること等を検討

極

- 微量物質が計測・解析可能な、世界最高性能（感度×選択性で従来比10,000倍の性能）の質量分析システムを開発する
- 当該システムを用いた がんやアルツハイマー病のバイオマーカーの発見や、創薬のための標的分子候補の発見に努め、次世代MSシステムの診断・創薬への有用性を実証する

島津製作所：  
機器研究開発

サブテーマ 1

次世代質量分析システムの開発

② 改善リクエスト  
① バイオマーカー候補発見

① 試作機・ノウハウの提供  
② バイオマーカー候補測定法確立

京都大学：応用研究

サブテーマ 2

乳がん等 新規バイオマーカー同定と創薬ターゲット探索

サブテーマ 3

アルツハイマー病の早期診断方法の開発

私企業では不可能な、公的検体へのアクセス

「産・学・官」連携で実現を目指す